

**スマートモビリティチャレンジ事業
公募概要の説明**
(地域新MaaS創出推進事業公募概要)
(スマートモビリティチャレンジ推進協議会
伴走支援概要)

2024年4月15日

**ROAD
to
the
L4**

令和6年度スマートモビリティチャレンジ事業 概要

- 事業目的：将来的な技術の進歩も見据え、モビリティ関連産業の裾野拡大、競争力強化に資する、全国横展開が可能な新たなビジネスモデル事例を創出すること

個別地域の支援

実施項目	内容	実施形式
地域新MaaS創出 推進事業	モビリティを活用した新たなビジネスモデルの実証	・ 地方局からの委託契約 ・ 3,000万円程度×4件程度
構想から実証段階 の伴走支援 (協議会活動の一環)	①将来構想の策定～実証実験計画作成の支援 ②実証実験におけるニーズ分析・改善策検討の支援	・ 原則委託契約なし*（ハンズオン支援） ①コンソが検討議論に参画（5～6地域程度） ②改善策検討に向けたワークショップやインタビュー等を支援（2～3地域程度）
事務局分析	・ 地域実証や伴走支援等で得られる個別事例の横断分析による、他地域展開のための知見整理	・ 事務局コンソーシアムが実施 ※採択地域には協力を求めることがある
スマートモビリティ チャレンジ 協議会活動	・ 地域実証や伴走支援、事務局分析等で得られた知見の公開、スマモビの普及活動	・ 事務局コンソーシアムが実施 ※採択地域には協力を求めることがある

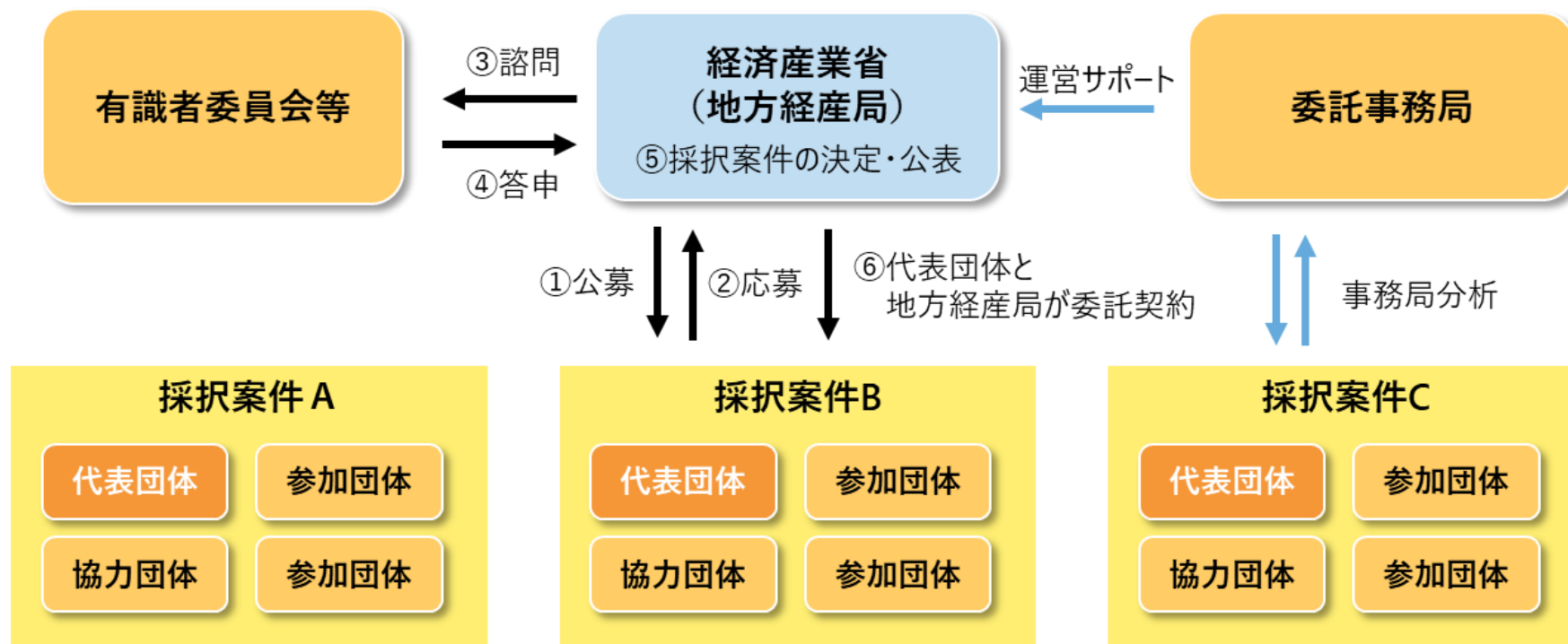
本年度の地域新MaaS事業はテーマを一本化し、産業競争力の強化を目的に据えます

全体 テーマ	モビリティを活用した新たなビジネスモデルの実証
目的	将来的な技術の進歩も見据え、新たなモビリティサービスの導入や異業種連携、データ利活用等の取組により、モビリティ関連産業の裾野拡大、競争力強化に繋がる新たなビジネスモデルを創出すること
公募 対象	以下のいずれか、もしくは複数の成果が期待される取組 ① 将来的な自動運転の普及も見据えた際のサービス・ビジネスモデルを実証し、想定される効果や乗り越えるべき課題を整理すること ※自動運転に関しては、「将来的な自動運転の活用を見据えたビジネスモデル」の検証が主であり、自動運転車両の運行費は本事業の委託費の対象外とします（＝自動運転の技術実証は対象外） ② 法規制等の課題によりこれまで具体化が進んでこなかったサービス・ビジネスモデルを実証し、想定される効果や乗り越えるべき課題を整理すること （モビリティ × 医療、観光、小売、物流、エネルギー、データ 等） ③ 自動車完成車メーカーや部品メーカー、ディーラーなどの新たなビジネス機会を創出する取組を実証し、想定される効果や乗り越えるべき課題を整理すること ④ その他、目的に沿った新たなビジネスモデルや、スマートモビリティによる新たな地域課題解決のサービス・ビジネスモデルを創出すること
採択 案件数 ・金額	3,000万円 程度 × 4件 程度

地域新MaaS創出推進事業に応募する団体は以下の要件をいずれも満たすものとします

- モビリティ関連産業の裾野拡大・競争力強化に資する取組を、まちづくりの将来像や地域の課題・ニーズを踏まえ、適切な地域で実施できること。
- 複数事業者の応募に関しては、各団体の協力体制が明確であること。
- 実証実験を実施する地域の基礎自治体との協力体制が明確であること。
- 新しいモビリティサービスの事業計画の作成や、社会実装を見据えた際の検証項目の抽出、検証項目に基づく実証実験の準備・実施、データ収集・検証等を主体的に推進できる体制であること。
- 定量データの提供も含め、事務局の活動に協力できること。事務局分析への情報提供やヒアリングへの協力、「スマートモビリティの創り方～みんなのガイドブック～」の改訂等に協力できること。
- 協議会に参画し、協議会の企画する様々な活動に積極的に協力できること。
(イベントでの講演、事業者・自治体等とのマッチングイベントへの参加、公式ホームページやSNSでの取組事例・成果の紹介等を想定)
- 実証実験で得られた成果を地域に共有する報告会等を積極的に実施すること。
- 安全性や法令遵守、感染症対策等について十分に配慮し、実証実験が実施できること。
- 国土交通省「MaaS関連データの連携に関するガイドラインver.3.0」を遵守し、実証実験が実施できること。
https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000301.html

契約主体は過年度と変わらず各経産局です
事務局コンソーシアムが評価や採択後の支援等、事業運営のサポートを実施します



応募〆切は、5/10（金）正午です

採択までの流れ

公募開始 <4月5日（金）>

公募説明会の開催 <本日>

応募書類の〆切 <5月10日（金）12:00必着>

※その他スマートシティ関連事業に申請される場合は、「別紙2：令和4年度スマートシティ関連事業の公募について」Ⅲ．応募手続を参照ください。
https://www8.cao.go.jp/cstp/stmain/r4_smartcity.html

提案内容の審査（スマートシティ関連事業における合同審査会等）<6月中旬予定>

※令和3年度からスマートシティ関連事業について、政府一体で推進していく方針から、MaaS実証についても、他府省と連携し、公募・審査等を進めることとなっています。

採択地域・事業者の決定 <6月下旬予定>

(参考) 審査基準

大項目	小項目	詳細
A.現状把握・将来構想の具体性	(1) 社会課題・地域課題・利用者ニーズの整理	事業実施の背景にある社会課題や地域課題、利用者のニーズを具体的に整理できているか
	(2) 将来構想	社会課題や地域課題の解決手段として、将来的に実装を目指すサービス像、ビジネスモデル等を具体的に描けているか
	(3) 実装に向けたロードマップと今年度事業の位置づけ	実装の目標年、実装に向けたロードマップ（今年度事業の位置づけ含む）が具体的に描けているか
	(4) 取組の新規性	取組に新規性はあるか。 また、過去の類似取り組み事例を参照し、提案内容に反映できているか。
B.今年度事業内容の具体性	(1) 今年度実証内容の概要・検証内容・検証手法	将来的な実装に向けて、「今年度事業で検証したい内容」（検証項目）が具体的に整理できているか。 検証手法（実証内容）は検証項目に対して適切か
	(2) 達成度の評価方法	検証内容の達成度を評価する手法（KPI等）を具体的に整理できているか
	(3) 実証スケジュール	事業のスケジュールは、検証項目の検証を行うにあたって具体的かつ現実的か。また、柔軟な変更に向けた余裕を持たせているか
	(4) 実施体制の整備	応募者（および協力者）の体制は、事業を実施するにあたって十分か。また、参加主体の役割が明確で、社会実装に向けて必要な主体が参画（もしくは参画に向けた巻き込み活動を計画）しているか
	(5) 自治体の協力	事業実施にあたり、地域（自治体等）の協力は十分に得られているか
	(6) 利用者ニーズの反映	利用者（サービスの受益者）視点での意見・ニーズが今年度事業内容に反映されているか。また、実証実験等の実施にあたり、利用者視点での意見・ニーズを聴取し反映する取組となっているか
C.事業目的や期待する成果との整合性（加点項目）	(1) 期待する成果との整合性	本事業が期待する成果に対して整合性があるか 具体的に成果が達成できそうか
	(2) 具体的に目指す成果	
D. その他	(1) ワーク・ライフ・バランスの推進	ワーク・ライフ・バランス等推進企業であるか

今年度はスマートモビリティチャレンジ協議会の活動として、事務局による伴走支援を実施します

支援分類	①将来構想の策定～実証実験計画作成	②実証実験における利用者ニーズ分析・実証計画改善
対象地域	スマートモビリティの取組を進めたいと考えているが、具体的な構想が定まっていない地域	過去3年以内にスマートモビリティ関連の実証実験を行った経験があり、かつ本年度実証実験を行う予定がある地域 ※経済産業省「地域新MaaS創出推進事業」に限らない
支援の目的・ゴール	数年以内に実証実験を行いたいと考えているものの 具体的な構想が定まっていない地域 について、 サービス内容・効果目標・想定ユーザー といった 具体的な構想や実証実験計画が完成している状態 を目指す	過去に実証実験を行い、利用者数不足に直面した地域 について、 利用者とのコミュニケーションを深める施策や、その内容を踏まえた実証実験計画の修正を通じて、効果検証等を十分に行える状態 を目指す
具体的な支援方法	定例会議への参画（隔週程度） 検討に用いるワークシート等の提供、記載におけるアドバイス その他、地域での実施・検討事項に対するアドバイス	ワークショップ・インタビューの企画・運営・取りまとめ支援* 上記内容を踏まえた実証実験計画の修正に関するアドバイス その他、地域での実施・検討事項に対するアドバイス
想定アウトプット	取組構想・実証実験計画資料（10ページ程度）	ワークショップ・インタビューの実施報告資料 実証実験計画の修正案に関する資料 （各10ページ程度）
応募者	当該地域において、スマートモビリティの取組全体を主導する主体 （自治体の担当者、交通事業者、その他スマートモビリティに取り組む事業者など）	
実施時期	第1ターム：7月～9月（若干の前後は応相談） 第2ターム：10月～12月（若干の前後は応相談）	
採択数	5～6地域程度	2～3地域程度

①では、課題設定・施策検討から、実証に向けた体制整備、目標設定等まで、調査・分析・検討・資料作成等を補助し、最終的に計画のとりまとめを支援します

調査・分析・検討結果をとりまとめるワークシート（イメージ）

課題と施策の整理ワークシート

SmartMobility Challenge
スマートモビリティチャレンジ

現状（問題点）

実現したい姿

課題 1

施策候補 1)

施策候補 2)

課題 2

施策候補 3)

施策候補 4)

スマートモビリティチャレンジ2023
自動運転レベル4等先進モビリティサービス研究開発・社会実装プロジェクト

RoAD to the L4

体制の整備ワークシート

SmartMobility Challenge
スマートモビリティチャレンジ

※付録は、必要に応じて付録を追加・削除してください

求められる役割	いま準備している主体	巻き込みたい主体
① 地域の実情を踏まえて構想づくりを主導する		
② 利用者のニーズ把握を主導する		
③ 専門的な知識からアドバイスする		
④ 地域内外で取組への共感を広める		
⑤ 実証や実証の計画作りを主導し、必要なりソースを確保する		
⑥ 実証や実証時の事業主体となる		
⑦ セビリティを運行する		
⑧ 車両や技術・システムを提供する		
⑨ -		
⑩ -		
⑪ 連携サービスを提供する		
⑫ -		
⑬ 利用者とのコミュニケーションを主導する		
⑭ データを収集・分析し、POCAサイクルを図る		

スマートモビリティチャレンジ2023
自動運転レベル4等先進モビリティサービス研究開発・社会実装プロジェクト

RoAD to the L4

効果目標ワークシート

SmartMobility Challenge
スマートモビリティチャレンジ

解決したい交通課題

※設定する効果目標の値に応じて
付録を選択してください

KGI
(効果目標)

KPI
(評価指標)

検証方法 必要データ

データ
取得方法

スマートモビリティチャレンジ2023
自動運転レベル4等先進モビリティサービス研究開発・社会実装プロジェクト

RoAD to the L4

実証計画ワークシート

SmartMobility Challenge
スマートモビリティチャレンジ

① 構想	② フィールド
③ 中間目標	④ 施策
⑤ 検証項目	⑥ 期間
⑦ KPI (評価指標)	⑧ 実施方法
⑨ 必要データ	⑩ 信頼性
⑪ データ取得方法	⑫ 想定ユーザー
	⑬ 体制

スマートモビリティチャレンジ2023
自動運転レベル4等先進モビリティサービス研究開発・社会実装プロジェクト

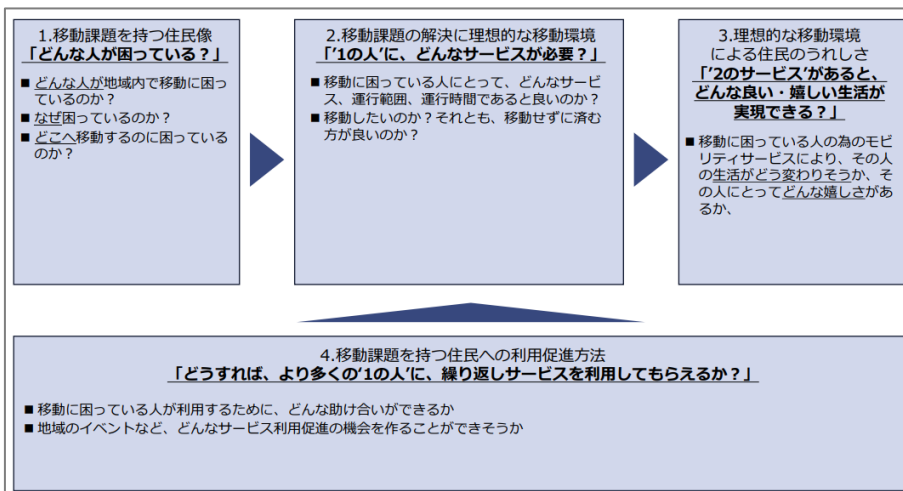
RoAD to the L4

②では、利用者へのインタビュー等の企画・運営を補助。その内容からサービスの利用者像をとりまとめ、利用向上のためどのように実証実験を修正すべきか提案します

ワークショップのイメージ



ワークショップに利用するフレームワークのイメージ



SmartMobility Challenge
スマートモビリティチャレンジ

サービス内容ワークシート

一言で表現したユーザー像	
①プロフィール	
②過去の経歴	
③現在の生活	
④外出頻度や外出先	
⑤異動に関するQoLのゴール	

SmartMobility Challenge
スマートモビリティチャレンジ

実証計画ワークシート

①構想 ②中間目標 ③検証項目 ④KPI (評価指標) ⑤必要データ ⑥データ取得方法	⑤フィールド ⑥施策 ⑦期間 ⑧提供方法 ⑨価格 ⑩想定ユーザー ⑪体制
---	---

スマートモビリティチャレンジ2023
自動運転レベル4等先進モビリティサービス研究開発・社会実装プロジェクト

RoAD to the L4

（参考）応募時に記載を求める項目（支援①）

- 以下の内容を総合的に勘案し、支援実施地域を選定する
- なお、審査時には必要に応じ、事務局から応募者にヒアリングの実施を依頼するケースがある

大項目	小項目	詳細
応募理由	（１）伴走支援の必要性	伴走支援に応募した背景・目的や、本支援に期待する事項等を具体的に記載
現状把握	（２）対象エリアの概要	まち全体のうち、特に地域社会・交通の問題点が顕著なエリアを選定し、その概要を記載
	（３）利用上・供給上の問題点	（２）における、地域交通の抱える問題点を記載
将来構想 （イメージ）	（４）現在検討している取組の概要	（３）の解決に向け、応募時点で構想している取組の概要（案）や簡易的なロードマップ（案）を記載
取組体制	（５）実施体制	検討や将来的な実証実験等を推進する主体・体制（案）を記載
	（６）既存の取組・計画との関係性	本事業で検討する取組と、当該エリア・自治体の既存の取組・計画等との関係性を記載

(参考) 応募時に記載を求める項目 (支援②)

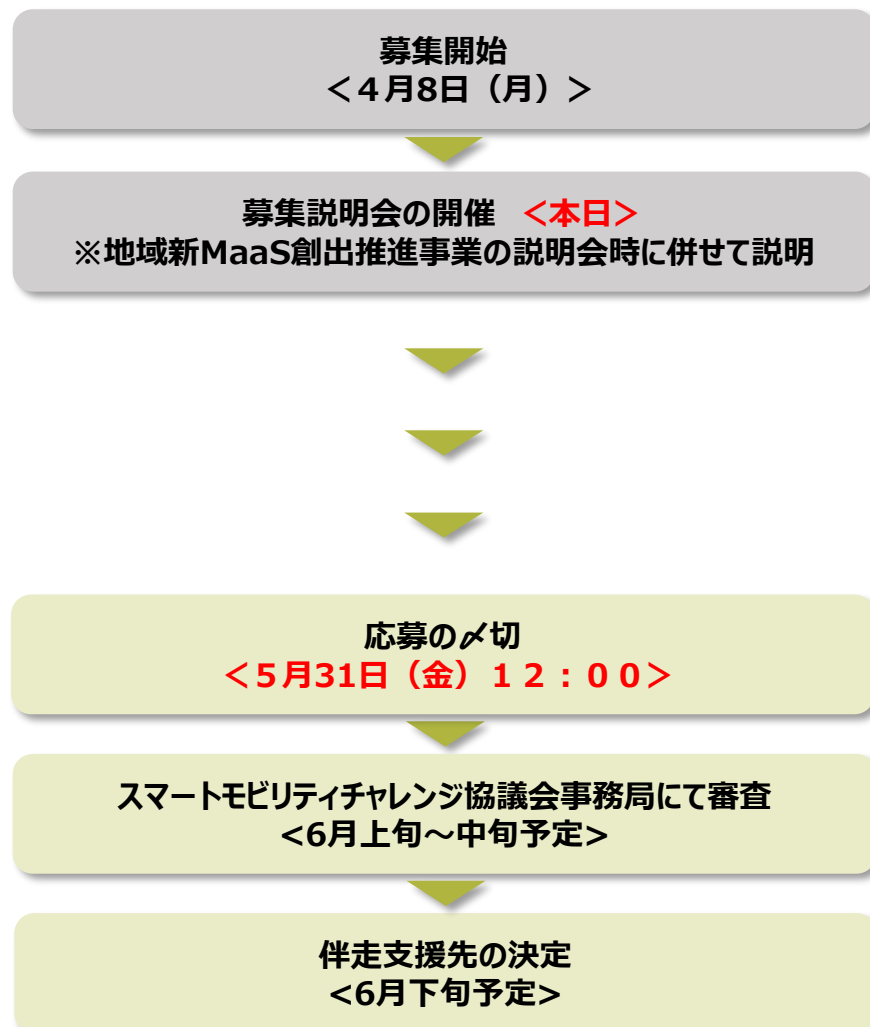
- 以下の内容を総合的に勘案し、支援実施地域を選定する
- なお、審査時には必要に応じ、事務局から応募者にヒアリングの実施を依頼するケースがある

大項目	小項目	詳細
応募理由	(1) 伴走支援の必要性	伴走支援に応募した背景・目的や、本支援に期待する事項等を具体的に記載
現状把握	(2) 対象エリアの概要と課題	対象としているエリアの概要と当該エリアが抱える地域課題・交通課題等を具体的に記載
過年度 実証実験	(3) 過去実施した実証実験の 概要および実証の結果・課題	過去3年以内（2021/4～2024/3）に行った実証実験の概要や、その結果・課題を具体的に記載
本年度 実証実験	(4) 本年度実証実験計画の概要 ・検証したい点	本年度（2024/4～2025/3）に行う予定の実証実験の概要や、過年度の実証を踏まえ重点的に検証したい事項を記載
取組体制	(5) 実施体制	検討や将来的な実証実験等を推進する主体・体制を記載
	(6) 既存の取組・計画との関係性	本事業で検討する取組と、当該エリア・自治体の既存の取組・計画等との関係性を記載

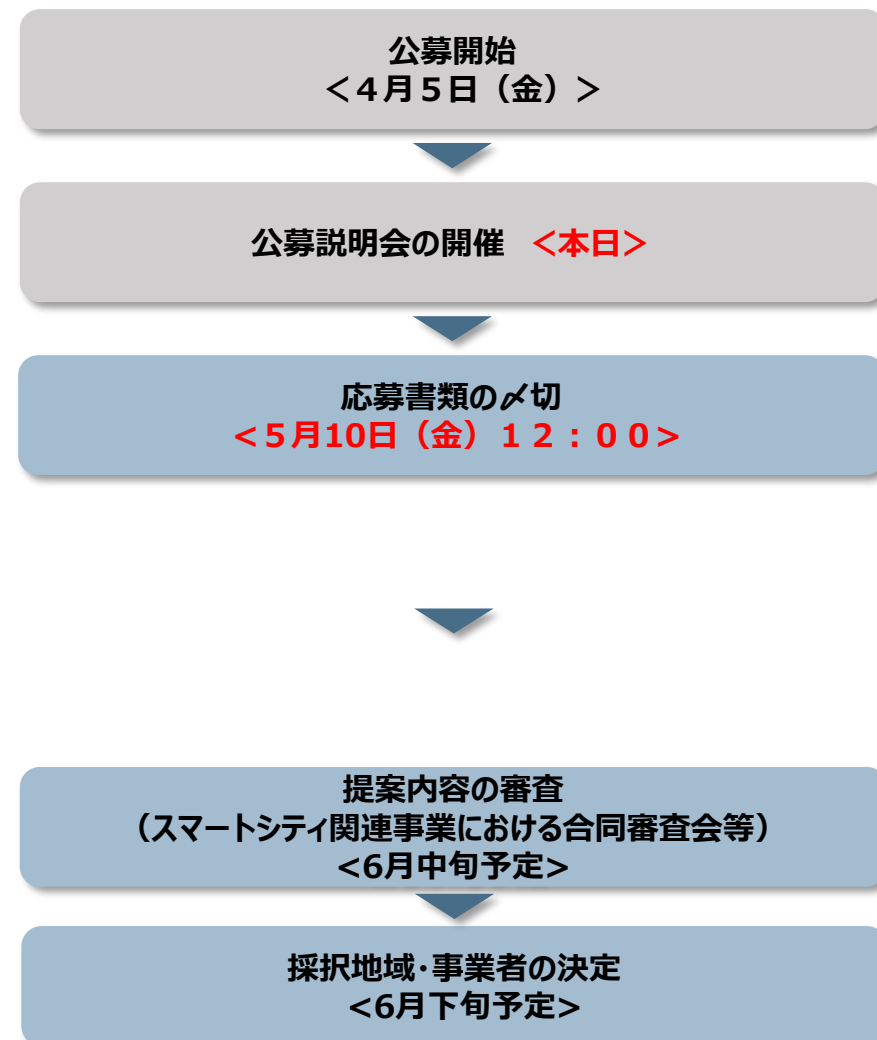
地域新MaaS事業と同時期に募集を開始するが、〆切はやや遅れ、5月31日です

採択までの流れ

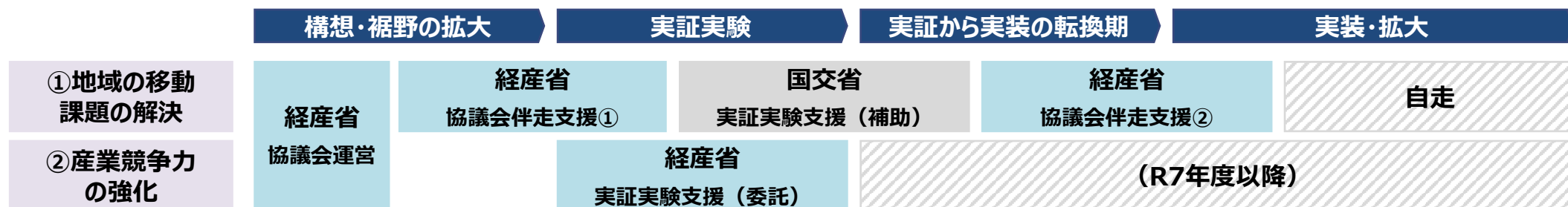
伴走支援の募集の流れ



地域新MaaS創出推進事業の公募の流れ

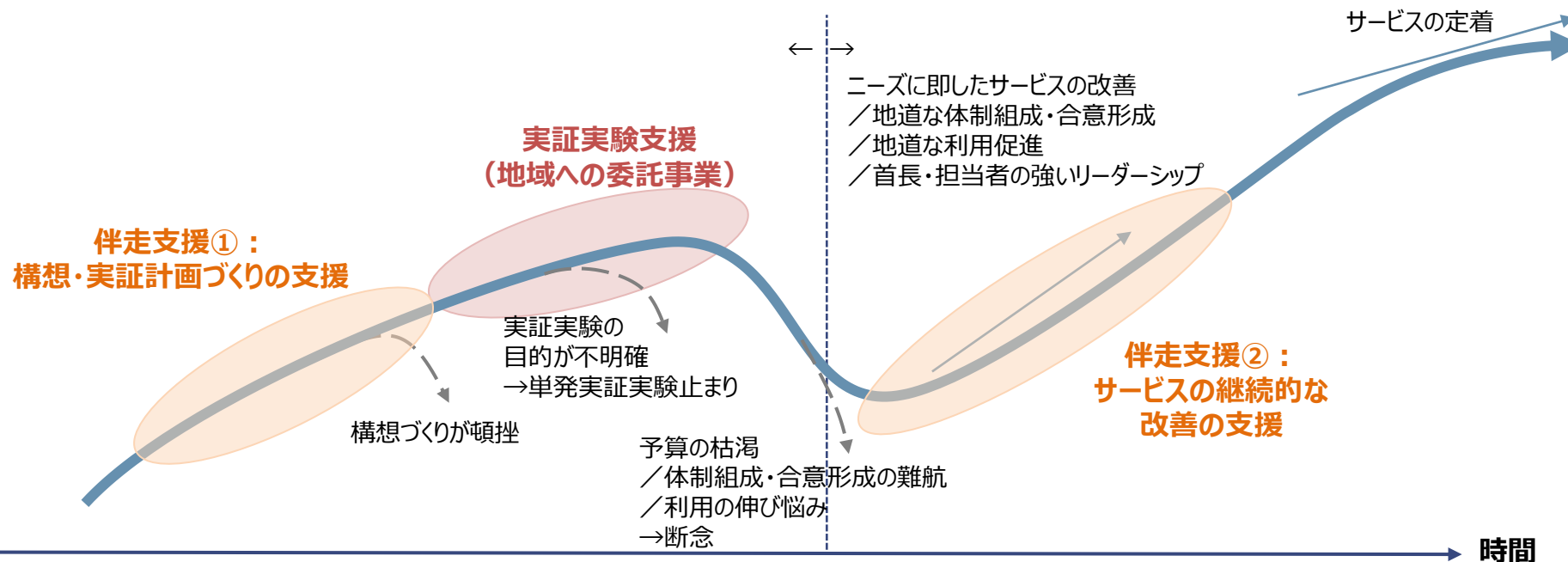


R6年度は、地域の移動課題解決は国交省事業と伴走支援にてサポートし、
地域新MaaS創出推進事業は産業競争力の強化を重視します



社会受容性・
事業性・
推進体制

事務局分析：「実証から実装」の成功例と「つまづき」例の分析



地域新MaaS事業の採択地域（伴走支援採択地域含む）は、事務局分析へのご協力をお願いいたします

目的

地域実証や伴走支援等で得られる個別事例を横断的に分析することで、他地域展開等に活用するための知見を整理すること

実施概要

事務局分析では、昨年までの成果に基づき、スマートモビリティ導入の成功事例とつまづき事例の境界の分析や、モビリティサービスの類型整理等を実施する予定です。

事務局分析は、基本的に事務局が行います。採択地域には、**議論やデータ提供、各種調整等**にご協力いただく予定です。なお、事務局から依頼する**事務局分析に関わる作業で新たに発生する費用は、基本的に事務局の費用で賄うもの**とします。採択されましたら事務局との速やかな連携・協調をお願いします。

【事務局分析の例】

（調査・分析）

- ・ 地域特性や地域課題に応じたモビリティサービスやデジタル技術導入に関する調査・分析
- ・ モビリティサービスやデジタル技術導入によって期待される効果の分類や効果計測手法に関する調査・分析
- ・ 社会受容性向上に向けた住民・利用者参加型のサービスデザイン過程の設計・分析

（情報収集）

- ・ 実証実験の前中後における実験協力者における印象評価、行動履歴・サービス評価、運行・運営の収入・コスト情報の収集
- ・ 実証実験に関する定量的な情報の収集（サービス要件・実績データ等を想定。匿名化を行った上での収集を想定）

スマートモビリティチャレンジ推進協議会では、これまで得た知見を発信しています

目的

地域実証や伴走支援、事務局分析等で得られた知見を広く公開し、スマートモビリティの裾野を拡大すること

実施概要

- ・ 「スマートモビリティチャレンジ推進協議会」は、新しいモビリティサービスの社会実装を通じた移動課題の解決及び地域活性化に挑戦する地域や企業を応援するために、経済産業省・国土交通省で設立した協議会です
- ・ 趣旨に賛同いただき、自らの取組状況や課題認識等について積極的に情報共有いただける地方自治体や企業等に、広くご参加いただいています（令和6年1月現在：全382団体（自治体123、事業者225）
- ・ なお、今年度事業にて採択された地域（代表団体・参加団体含む）は本協議会に入会をお願いいたします。
- ・ 協議会の具体的な活動内容や会員要件等は、スマートモビリティチャレンジのキャンペーンサイトにて公開しております。

<https://www.mobilitychallenge.go.jp/>

【R6年度の活動予定】

①体験ツアーの開催

- ・ 先進地域を視察し意見交換会に参加できる体験ツアーを実施

②協議会会員の相談会

- ・ 協議会会員から相談希望を受け、Web会議等での相談会を実施

③成果報告会

- ・ R6年度地域新MaaS創出推進事業、伴走支援、事務局分析の成果を報告予定

④地域シンポジウム

- ・ 全国で3回程度開催予定
- ・ オンラインと対面のハイブリッド開催で、開催地域は今後決定

⑤協議会メールマガジン

- ・ 体験ツアーやシンポジウムの告知・報告等を送付

スマナビ協議会への
入会はこちらから➡



スマモビ協議会では、5年間の実証で培った知見をもとに、「各地域が自力で取り組める」環境の創出を目指したガイドブック（「スマつく」）を作成しました

背景

- スマートモビリティやMaaSの「解説書」や「事例集」は、本事業内外で既に数多く存在する
- 一方で、自治体や事業者からは「具体的な検討手順や検討の粒度が分からない」という声が挙がっており、本事業における応募資料も「玉石混淆」の状態（構想が非現実的、実証の目的が曖昧といった提案書が見られるなど）

作成目的

- 5年間の実証知見をもとに、「ガイドブック」形式で、スマートモビリティの取組類型や、具体的な検討手順・検討粒度を示すことで、「新たにに取り組む地域が、自力で一定水準の検討を行える」状態をつくる

成果物

約80ページの
ガイドブック

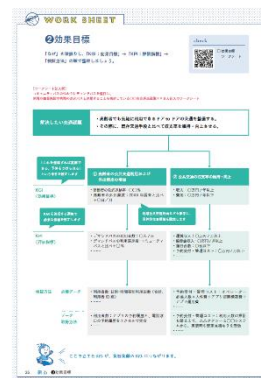
①「知る」編

- 「スマートモビリティ」という難解な概念を体系化し、どのような施策メニューが考えられるのか、どのようにメニューを選んでいくべきかを例示



②「創る」編

- 構想や実証計画の策定で押さえるべきポイントや先行事例を解説するとともに、検討手順に沿って、実際の検討時に活用できるワークシートを掲載
- このほか「スマートモビリティの健康増進効果」など、研究知見もコラムとして掲載



公開場所

スマートモビリティチャレンジ協議会HPにて公開中です。
<https://www.mobilitychallenge.go.jp/knowledge/>



ご質問は各公募要領の質問状を用いてご連絡ください

- 公募の詳細については、以下のWebサイトをご参照ください

地域新MaaS創出推進事業

公募Webサイト：

<https://www.meti.go.jp/information/publicoffer/kobo/2024/k240405001.html>

上記のURLにアクセス

もしくは



スマホでQRコードを読み取る

スマートモビリティチャレンジ協議会 伴走支援

公募Webサイト：

<https://www.mobilitychallenge.go.jp/info/>

上記のURLにアクセス

もしくは



スマホでQRコードを読み取る

- ご不明な点がございましたら、それぞれの公募要領に記載の質問状の様式にてご連絡ください
- 回答については、各公募Webサイト上に「本事業に関する質問と回答.pdf」として、随時更新する形で公開予定です

Smart Mobility Challenge

スマートモビリティチャレンジ